

「ロボット特区指定を起爆剤に さらなる地域活性化を」

2月6日、平塚プレジールを会場にして第4回湘南地域懇談会を開催した。シンポジウムには、茅ヶ崎市の服部市長はじめ100名近くの方が参加された。開会にあたり小俣会長より、「昨年の2月に国から『さがみロボット産業特区』の指定を受けて、県は様々な支援と規制緩和を国に対して求めながら、研究開発や実証実験の促進などによる地域経済の活性化につなげようとしている。このシンポジウムを機に、ロボット特区を起爆剤として、湘南地域の産業活性化が進むことに少しでも寄与できるものと期待したい」との挨拶があった。

■基調講演■

神奈川県産業労働局長

桐谷 次郎 氏

○演題：『「さがみロボット

産業特区』で経済の活性化をめざす

- ・生活支援ロボットの実用化を通じて地域の安全と安心を実現することにより、県民の「いのち」を守るといふ政策課題に対処して行きたい。
- ・特区の効果を大きなものにしていくために、電波法や道路交通法、薬事法、医師法、農地法などについての規制緩和を国と折衝しており、少しずつではあるが、前へ進んできている。
- ・産学連携のさらなる強化による研究開発・実証実験などを促進するために、全国公募やオープンイノベーションに力を入れていきたい。
- ・人口の減少と超高齢社会は確実にやってくる。京浜臨海部のライフイノベーション特区との連携も重要であり、県全体での盛り上げを進めるので、是非積極的に関わっていただきたい。

基調講演に続いて、次の5名の方にロボット特区との関わりやこれからの課題と期待についてそれぞれの立場からお話していただいた。



和田氏

本田氏

大前氏

本田氏

■パネルディスカッション■

パネリスト：桐谷次郎氏（神奈川県産業労働局長）

和田 博氏（ダブル技研㈱代表取締役）

本田英二氏（富士ソフト㈱ロボット事業部長）

大前 学氏（慶應義塾大学大学院教授）

コーディネーター：真野敦史氏（NEDO 主任研究員）

■真野氏：「ロボット技術」と異業種技術の融合により新たなビジネスチャンスが広がる可能性は極めて大きい。NEDOとしても、様々な切り口で企業の頑張りを応援していきたい。

■和田氏：D-HandとD-Visionの改良をさらに進め、自分たちの可能性を広げていきたい。1社で難しいこともあるので、県には企業間の連携を効果的に仕掛けていただきたい。

■本田氏：PALRO（パルロ）が介護予防という分野で活躍できることが分かってきた。さらなる開発強化には、現場との連携が不可欠なので、バックアップをお願いしたい。

■大前氏：自動運転を広めるためには、小さなエリアで自治体と企業が技術を持ち寄って実証を進めることがよいのではないかと考える。生活支援ロボットは行政コストの削減にも寄与すると考えられる。

■桐谷氏：「ロボット」を効果的にアピールする方法の一つが「実証実験」だと考える。見せることで理解も広まる。企業の知的財産をオープンイノベーションで有効に連携させていきたい。

シンポジウムの最後に協会の副会長で地域活性化委員会の委員長でもある日産自動車㈱の小沢横浜工場長より閉会の挨拶があった。

シンポジウムの後の交流会には、平塚市の落合市長も参加され、地元経済状況やロボットに関する情報交換が行われ、こちらも盛況な会となった。